

2024(令和6)年度 沖縄国際大学一般選抜試験問題

【選択科目：倫 理】

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
2. 志願票及び受験票に記入された科目を解答すること。
3. 志願票及び受験票に記入された以外の選択科目を解答した場合は、無効とする。
4. 筆記用具は、鉛筆（HB）または、0.5 ミリのシャープペンシル（HB）に限る。
5. 問題の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
6. 問題冊子の余白等は適宜利用してもよい。
7. 試験終了後、解答用紙のみを提出すること。問題冊子は持ち帰ること。

2024(令和6)年度 沖縄国際大学一般選抜試験問題

【倫 理】

※ 解答はすべて解答用紙に記入すること。

I. 次の社会契約説に関する文章を読んで、後の問いに答えなさい。

17世紀のイングランドでは内乱や反乱の陰謀などが起き混乱した状態にあった。1642年には、国王チャールズ1世を支持する王党派と、国王に反対し議会を中心とした政府の樹立を目指す議会派に分かれた内戦が勃発した。a 1649年、内戦は議会派の勝利に終わり、国王は処刑された。

こうした混乱の最中（①）は1651年に『リヴァイアサン』を刊行した。（①）が支持したのは強力な国家だった。なぜならば、国家が弱く誰も法律を守らないような混乱した状態では、自分を自分で守るしかなくなり、b 自分以外の者を敵として争うような惨めな状態で生きなければならないからである。こうした惨めな状況から脱するために、他の人々も同様に行うという条件で、無制限にふるまう権利を放棄するという契約を結ぶことになる。とはいえ契約を結んでも、相手がその約束を守るとは限らないから、この契約を守らせるためには、全員の権利を特定の人や集団に委ねる必要がある。すなわち、人々は強大な国家を作り、その国家にはほぼ全ての権利を **A** することになる。（①）は、この国家を、神話の怪物になぞらえて「リヴァイアサン」と名づけたが、そこには、この国家（怪物）が騒乱や内戦という病気によっていつか死んでしまうかもしれない、したがって、弛まぬ努力によって調和や秩序を維持しなければならないという意図が込められている。

イングランド共和国が樹立され議会派が実権を握るも、混乱は収まらず、指導者クロムウェルを護国卿に任命し、事実上の独裁が始まった。1658年にクロムウェルが死去し、息子のリチャードが護国卿を継ぐものの、混乱が深まり、チャールズ2世を再び国王として迎えることになった（王政復古）。これによって、王党派と議会派の対立が活性化することになった。

1680年、王政の擁護のためにフィルマーによって書かれた『家父長論』が出版された。フィルマーによれば、c 神はアダムに家族を統治する父としての権利を与え、そのアダムの権利は代々、国王に継承されてきた。したがって、国王は議会からの承認や助言を必要とせず、自由に法律を制定できると主張した。

この『家父長論』に対抗するため（②）は1690年に『統治論』を出版した。（②）も（①）のように社会契約説を唱えたが（①）とは違う説明をしている。（②）によれば、人々は国家がなくとも自由で平等に暮らすことができる。というのも人間の本性は、勤勉で理性的であり、喧嘩や争いを好まないからである。国家がなくとも、人々は、他の人の生命や、健康、自由、財産などを侵害すべきではないというルールに従う。

しかし、国家がないとしばしば困難なことが起きる。例えば権利の侵害が起きたとき、それを仲裁してくれる上位の存在がない。したがって、侵害された者は自分の手で相手方を処罰す

る以外にないのだが、これをするると報復合戦になってしまいかねない。そこで、こうした不具合を解消するために、人々は処罰する権利を放棄し、政府を設立することになる。政府は、処罰する権利を **B** され、人々の権利を保障する。このように政府が作られたのは、自分たちの状態をより良くするためであるから、政府が人々を抑圧するなど、設立の意図に反した逸脱した統治を行うならば、d 人々は預けた権利を取り戻すことができる。

18世紀のフランスで活躍したスイス出身の思想家（③）もまた社会契約説を唱えたが、上記の二人とは違う説明をしている。（③）によれば、野生に生きる人間は幸福である。文明人と違って、自由で心が安らかで健康であるからだ。人々が集団で生きようになり、文明が生まれ、所有という考えが登場してから、人間は不幸になった。争いや競争が生まれ、富む者が貧しい者を支配するという構造が固定化していくからである。社会や法律はこのような不平等を固定化し承認するために利用される。このような観点から、（③）は腐敗や不平等を容認しない。e 新しい政治体をつくるための社会契約を構想した。

問1 上の文章中の（①）～（③）に当てはまる人物名を記入し答えなさい。

（各2点）

問2 上の文章中の **A** および **B** に最も良く当てはまる語句をそれぞれ漢字二文字で答えなさい。（各2点）

問3 下線部aについて、イングランド内戦の結果、国王が処刑され、イングランド共和国が設立された出来事を何と言うか、記入し答えなさい。（2点）

問4 下線部bの自然状態のことを（①）は何と言い表したか、記入し答えなさい。（3点）

問5 下線部cのような説を何と言うか、記入し答えなさい。（3点）

問6 下線部dの権利を（②）は何と言い表したか、記入し答えなさい。（3点）

問7 下線部eについて（③）が望ましいと考えた社会契約は「全体意志」ではなく「一般意志」に基づく契約であった。全体意志と一般意志の違いについて、60字以内で説明しなさい。（6点）

Ⅱ. 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

18世紀ドイツの哲学者^aカントは、人間の自由は（ ① ）法則に従って行為するところに成立すると主張した。困っている人を助けるとしても、名声や謝礼を得たいというような欲求、あるいは同情のような感情からなされたのであれば、それは自由な行為ではない。カントによれば、欲求や感情に縛られず、（ ② ）理性の打ち立てる（ ① ）法則への尊敬からのみ行為することこそ自由である。自由は（ ③ ）理性では認識できないが、道徳的行為においては前提されなければならない。

この場合、自由は意志の（ ④ ）として考えられている。意志の（ ④ ）とは、何をなすべきか自ら判断し、^b道徳的義務を果すことである。言い換えれば、^cある行為が道徳的によいかどうかを決めるのは、その行為の結果ではなく動機だということである。どんなによい結果が得られようとも、動機が自律的な意志としての（ ⑤ ）でなければ、道徳的によい行為は成立しない。

したがって、カントによれば、^d人間本来の自由は道徳の領域においてのみ成立する。^e私たちは、自律的な行為主体としての人格であり、手段や道具にすぎないような「物件（もの）」ではない。私たちが理想とすべき道徳的共同体は、互いをたんなる手段としてではなく（ ⑥ ）として尊重する人格の住む（ ⑥ ）の国なのである。

問1 上の文章中の（ ① ）～（ ⑥ ）に入る最も適切な語句をそれぞれ答えなさい。

（各2点）

問2 下線部aのカントの著作として正しくないものを、以下の(ア)～(オ)から一つ選びなさい。

（1点）

(ア) 『純粋理性批判』

(イ) 『理性の腐食』

(ウ) 『実践理性批判』

(エ) 『判断力批判』

(オ) 『永遠平和のために』

問3 下線部bを述べる命令は何と呼ばれるか。漢字四文字で答えなさい。（4点）

問4 下線部 c のような考え方とは異なり、ある行為がよい行為かどうかを決めるのは、それが結果としてより多くの快楽を生み出すかどうかであると主張した哲学者は誰か。以下の(ア)～(オ)から一人選びなさい。(1点)

- | | | |
|----------|-----------|----------|
| (ア) ヘーゲル | (イ) ヤスパーズ | (ウ) ベンサム |
| (エ) フィヒテ | (オ) ハイデガー | |

問5 下線部 d に関連して、自由についてのカントの考え方として正しいものを、以下の(ア)～(エ)から一つ選びなさい。(1点)

- (ア) 自由であるなら良心の声に背くことができる。
- (イ) 自由は自然法則に従うことである。
- (ウ) 自由は科学的認識の対象ではない。
- (エ) 自由は歴史の進展とともに社会のうちに具体的に実現される。

問6 下線部 e が述べている事柄として、最も適切なものを以下の(ア)～(オ)から一つ選びなさい。(1点)

- (ア) 行為の動機
- (イ) 人間としての尊厳
- (ウ) 人間の欲求
- (エ) 人間の性格
- (オ) 個々人の社会的地位

問7 カントに従うなら、困っている人がかわいそうだからと人助けをしたとしても、この行為は道徳的によい行為とはならない。その理由を 60 字以内で説明しなさい。(7点)

Ⅲ. 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

明治の末頃から昭和の前期にかけて、日本や東洋の伝統思想をふまえた、我が国はじめての独創的な哲学・倫理学が誕生した。

西田幾多郎は、参禅体験を通して、思慮や分別が加えられる前の意識現象を **A** と名付け、そこに本来の自己の根源と真実在の根底を見ようとした。それは、たとえば私たちが美しいものに心奪われたときや何かに打ち込んでいる瞬間など、わたしという自己とそれら対象とが統一している **B** の状態をいう。

西田によれば、**A** においてこそ「真の自己」があらわれているのであり、通常の個人という考え方は、それをあとから意識・反省したところに出てきたものである。そしてそのような真の自己と一致することが、個人としての自己の最も深い要求をみたすことであり、そこにこそ人格の実現としての **C** があるという。

西田は、その思索の後期において、すべてを生み出す根源としての絶対無について語った。客観的世界に存在するものはこの絶対無の自己限定によって成り立つ。そして、現実世界にある絶対的に対立するものは、絶対無の場所において同一であるとした。

和辻哲郎は、西田哲学の影響を受けながら、独自の倫理学を構築した。和辻によれば「男女のなか」とか「なかが悪い」などという表現があるように、人は孤立して存在しているのではなく、人と人との関係のうちに存在する **D** である。社会とはそうした人間関係の全体であるが、それもまたそれ自身として存在しているのではなく、個々人があってはじめて成り立っている。こうした観点から、和辻は、真の人間の生き方を 社会の中に解消することのない自己を自覚しつつ、なお、その自己を否定して社会に生きるという動的なあり方の中に求めた。

問1 西田幾多郎と和辻哲郎の生没年として適切なものを(ア)～(カ)からそれぞれ一つずつ選びなさい。(各1点)

- (ア) 1811～1864
- (イ) 1847～1901
- (ウ) 1870～1945
- (エ) 1889～1960
- (オ) 1914～1996
- (カ) 1924～2012

問2 西田幾多郎と和辻哲郎の著作として適切なものを(ア)～(カ)からそれぞれ一つずつ選びなさい。(各1点)

- (ア) 『「いき」の構造』
- (イ) 『風土』
- (ウ) 『武士道』
- (エ) 『大乘仏教概論』
- (オ) 『善の研究』
- (カ) 『日本イデオロギー論』

問3 空欄 に入る語を漢字四文字で記入しなさい。(3点)

問4 空欄 に入る語を漢字四文字で記入しなさい。(3点)

問5 空欄 に入る語を漢字一文字で記入しなさい。(3点)

問6 下線部 a の事柄を西田は何と呼んだか。漢字九文字で記入しなさい。(4点)

問7 西田幾多郎は西洋近代哲学におけるどのような見方を批判することにより、自らの哲学を確立したといえるか。「自我」「対立」の二語を用いながら 50 字以内で記述しなさい。
(5点)

問8 空欄 に入る語を漢字五文字で記入しなさい。(3点)

問9 下線部 b のような「動的なあり方」を形容する語として最も適切なものを(ア)～(キ)から一つ選びなさい。(2点)

- (ア) 唯物論的
- (イ) 観念論的
- (ウ) 認識論的
- (エ) 存在論的
- (オ) 弁証法的
- (カ) 帰納法的
- (キ) 演繹法的

Ⅳ. 次の各文を読み、正しい文には○を、誤りを含んだ文には×を解答欄に記入しなさい。

(各1点)

- 1, 防衛機制（防衛反応）は、ため込んだフラストレーションを解消するために、自分の都合の悪い事実に対して、もっともらしい理由を考えて、自分を正当化することである。
- 2, マズローは、防衛機制（防衛反応）について、欲求階層説の安全の欲求を満たす機能であると説明している。
- 3, 防衛機制（防衛反応）による心の働きのうち、欲求不満や不安を無意識に抑え込むことを抑圧という。
- 4, 心理・社会的モラトリウムとは、青年は職業や結婚など社会人としての義務や責任を猶予され、その間にいろいろな役割実験をし、自分の可能性を試し、社会の特定の分野に自分に適した生き方を探し出す期間を指す言葉である。モラトリウムとは、もともとは支払いの猶予を表す経済用語であった。
- 5, 青年期の心理の特徴として、既存の文化やルールに対して迎合しやすい傾向をもつことが指摘されている。エリクソンは青年期の発達課題として、このように受動的な態度を乗り越えて、精神的な自立を目指すことが、現代社会の青年に求められる課題であると述べた。
- 6, フランクルの『夜と霧』は、アウシュビッツ収容所での体験の記録である。著書の中では、主にライフサイクルにおけるイニシエーションがもつ意義について述べている。
- 7, 障害の有無や、年齢、性別など、全ての人が同じ市民として地域社会で生きて行けるように環境を整備し、全ての人が共生できる社会をグローバル社会という。
- 8, 環境倫理は、自然の生存権、世代間倫理の問題、地球全体（有限）主義の3つの主張にまとめられる。
- 9, 知的財産権とは、発明や著作物など人間の創造的活動により生み出されるものに対して認められる権利であり、具体的には著作権や特許などを指している。
- 10, 沖縄県は、高齢社会であり、合計特殊出生率も全国に比べ著しく低いため、福祉の充実が急務である。

- 11, デート DV とは交際相手から行われる暴力行為のことである。その中には、交際相手のスマートフォンのメールや SNS の履歴をチェックすることや、相手に好みの服装や髪型を強要すること、相手に自分の予定に合わせさせることや自分と一緒にいることを強要することとも含まれる。

V. 次の言葉について説明しなさい。(各 4 点)

問 1 医療におけるインフォームド・コンセント

問 2 性別による就職差別の問題

